

広瀬川の豊かな自然を、市民の手で次世代へ

第38回 広瀬川1万人プロジェクト 河川・海岸一斉清掃 開催

穏やかな晴天となった11月8日、「第38回広瀬川1万人プロジェクト河川・海岸一斉清掃」が行われました。同プロジェクトは、「杜の都仙台」のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる河川とすることを目的に流域の一斉清掃を行うもので、毎年春と秋に開催されています。100万都市仙台の1%に当たる1万人をキーワードに、市民・企業・行政が連携し、2002年から活動を続けています。

今回は、広瀬川流域でクマの出没が確認されたため、2会場で開催を中止。忌避剤やクマ鈴を準備したほか、やぶや草むらを避け見通しのよい場所で作業を行うなど、対策を講じながら16の会場で実施されました。当日は約1200人がごみ拾いに参加し、合計約160袋分のごみを回収しました。空き缶やペットボトル、食品の包装材、たばこの吸い殻

などが多く、大きなものではスチール製の建材なども見られました。参加者からは「開催時期が例年に比べて遅いので、回収するごみの量も多いと予想していたが、むしろ減っているように感じる」などの声が聞かれました。同プロジェクト実行委員会委員長で、牛越橋会場で活動を見守った梶谷真さんは「プラスチックごみなどは海洋生物への影響が深刻視されている。今後もプロジェクトに参加してくれる皆さんと共に清掃活動を継続し、広瀬川流域の豊かな自然環境を次世代につないでいきたい」と話します。

あしたのみどりキャンペーンでは、これからも植樹・花壇づくりなどの支援活動を継続するとともに、仙台のみどり豊かな景観や環境を未来につなぐための取り組みを応援していきます。



牛越橋会場の清掃活動に参加した市民の皆さん



各参加者が手分けして河川敷の清掃を行います



足元の小さなごみも見逃さず丁寧に拾います



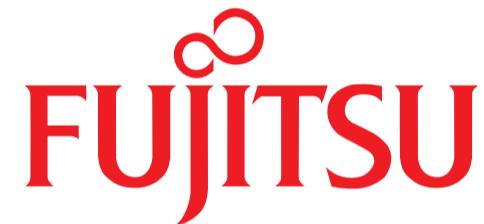
芋煮会の跡にも、多くのごみが残っていました



作業終盤には、拾ったごみはかなりの量になりました



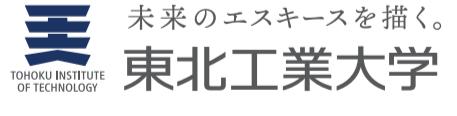
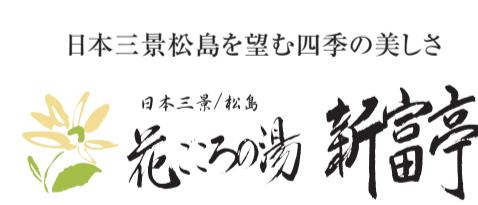
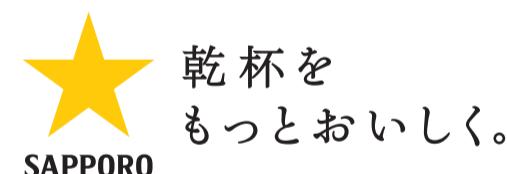
企画協賛



一般協賛



セラミックスで
創造と挑戦を
楽しむ
Niterra Group



本キャンペーンは、ご覧の各社・団体の協賛により実施しています。
順不同
主催／河北新報社 協力／仙台市